

別記

審議概要

1 公開案件の審議

(1) 報告1 教育長職務代行者の指名について

ア 説明員 倉本教育長

イ 結論 報告を了承

ウ 審議内容

【倉本教育長】

教育長職務代行者の指名について説明します。報告1を御覧ください。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項に定める教育長の職務代行者については、10月29日付けで、第1順位として橋場委員、第2順位として青山委員を指名しましたので、報告します。

御質問や御意見はありませんか。

《委員から質問・意見なし》

【倉本教育長】

では、このような体制で進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

それでは、以上で本件の審議を終わり、報告を了承します。

(2) 報告 2 マイスター・ハイスクール事業について

ア 説明員 唐川学校教育局長兼 ICT 教育推進局長

イ 結論 報告を了承

ウ 審議内容

【唐川学校教育局長兼 ICT 教育推進局長】

本事業については、本年 3 月に、北海道静内農業高校を研究指定校として、道教委から国に申請を行い、5 月に、国が全国から応募のあった 17 校のうち 12 校を採択したところであり、その中で本校が採択されたものです。

最初に、本事業の目標等について説明します。資料のポンチ絵を御覧ください。本事業は、第 4 次産業革命を牽引する地域産業を支える職業人材育成システムのモデルを構築することをねらいとし、今年度から令和 5 年度（2023 年度）までの 3 年間で実践研究に取り組むこととしており、本道では、静内農業高校を研究指定校とし、新ひだか町を中心に取り組むこととしました。その理由としては、本校が、園芸、食品、畜産、馬産に関して、農業を支える人材を総合的に育成している国内唯一の高校であること、道内の各地域の中でも、特に地元自治体からの手厚い支援が得られること、特色ある教育活動を行える素地があること、管理職を中心に学校が組織的に事業に取り組めることなどがありますが、何よりも、新ひだか町には、本校の取組を通して、生徒が地域に愛着を持ち、将来、地域を担う人材として活躍しようと主体的に活動できる環境が整っているということが大きいと考えています。採択に当たっては、これらの理由に加え、本校が、新ひだか町や地域の産業界、関係機関等の連携を図りながら、地域社会と産業の持続的な発展を牽引するイノベーターの育成などの高い目標を掲げた点が評価されたものと考えています。

次に、本事業の推進委員会に位置付けられている CEO と産業実務家教員の役割について説明しますが、事業推進委員会の名簿については、次のページに添付していますので、後ほど御覧願います。それでは、ポンチ絵左側のマイスター・ハイスクールビジョンを御覧ください。まず、CEO は、このマイスター・ハイスクールビジョンを実行する中心的な

役割を担うものであり、職業人材育成システムを構築し、指定校における取組を総括的に担う役割を持っています。過日、CEOとして、農政部生産振興局の技術支援担当局長を選任したところであり、今年度は、兼職でその役割を担っていただきますが、来年度からは、本校の副校長として配置する予定となっています。次に、産業実務家教員ですが、成長産業化に必要な資質・能力を身に付けた生徒を育成するために、社会実施されている技術等に係る知見を有する技術者や研究者等を選任し、本校の実験・実習等において、産業界の最先端の知識・技術等の指導を主に担当していただくとともに、産業界と一体となった教育課程の企画に関する総括的な役割を担っていただくものです。過日、日本軽種馬協会の獣医師を選任し、今年度は非常勤講師として、次年度以降は、特別免許状を取得していただき、指導に当たっていただくこととしています。

本事業は、国でも初めての取組であり、静内農業高校の取組、先端的な取組として、その成果が大変注目されているところです。道教委としては、地域の持続的な成長を支え、地域創生を実現するため、産学官が一体となり、産業の発展を担う最先端の産業人材を育成することが重要であると考えており、本事業の取組を中核として、生徒が地域の多くの大人と交流を深めながら、将来の本道の地域を担う人材として必要な資質・能力を身に付けることができるよう取り組んでいきたいと考えています。

説明は以上です。

【倉本教育長】

御質問や御意見はありませんか。

【橋場委員】

国の事業ということですが、所管は、複数の官庁にまた跨がることになるのでしょうか。

【唐川学校教育局長兼ICT教育推進局長】

本事業は、文部科学省の事業です。

【橋場委員】

3年計画ということですが、CEOと産業実務家教員は、3年間続けていただけるということでしょうか。

【唐川学校教育局長兼ICT教育推進局長】

はい。3年間継続となります。来年度からは、本格的に学校に入っただき、学校の組織の一員として取り組んでいただくということを計画しています。

【橋場委員】

今年度が1年次で、今後も2年間お願いするということですね。

【唐川学校教育局長兼ICT教育推進局長】

はい。

【大鐘委員】

資料左側のマイスター・ハイスクールビジョンを見ると、目的が非常に明確だと思いますし、学校、地域、企業、大学、行政が全てつながった総合的なプロジェクトということで、大変魅力を感じます。

そして、先ほど、成果が期待されているという説明がありましたが、推進委員会には情報発信の担当が含まれており、静内農業高校を起点として情報を発信していただくことで、全道の農業高校、ひいては、全道の専門高校、工業高校、水産高校、商業高校にも波及効果があることが期待されますし、専門高校を目指す子供達にとって、何よりの励みになるだろうと思います。

1つ質問です。道外からの高校生も静内農業高校では受け入れていると聞いていますが、現在、何名の生徒が道外から在籍しているのか、教えていただければと思います。

【唐川学校教育局長兼ICT教育推進局長】

現在、在籍している生徒の中では、1年生で6名、2年生で9名、3年生で3名の合計18名が道外出身であり、出身地別では、岩手県、神奈川県、埼玉県、東京都、大阪府、京都府となっています。

【川端委員】

日本でも、ようやく、海外のマイスターと同様に、1つの職業に注目し、その価値をしっかりと見出してもらえるような学校のカリキュラムが

スタートし始めたことを大変嬉しく思っています。静内農業高校の地域は馬産地であり、その特性を生かして学べるというのは、大変良いことだと思います。

質問ですが、ポンチ絵の中に「静農版課題解決学習の3カ年計画」とあり、この中には、インターンシップや海外との交流事業とあります。

日高近隣の地域では、既に、海外の調教師の方との連携などが進んでいるという話も聞いていますが、学校の取組として、今後、海外との交流なども計画されているのでしょうか。

【唐川学校教育局長兼ICT教育推進局長】

現在は、コロナの関係で、交流も具体的なところまでは進んでいないのですが、構想としては、イギリスなど、海外の有名な馬産地で学生が地域とどのような関わりを持っているのかなどについて、視察に行ったり、交流をしたりすることを盛り込んでいるところです。

【川端委員】

コロナが収束しなければ、現地交流は難しいだろうと思いますが、今後、交流を深めていきながら、広い知識を持ったマイスターが育っていくことを願いたいと思います。

【橋場委員】

静内農業高校は、道外からの生徒が多くいるということですが、実際には、どのように生活しているのでしょうか。下宿や寮があるのでしょうか。

【唐川学校教育局長兼ICT教育推進局長】

高校で寄宿舎を持っていますので、そちらで生活をしている生徒が大半だと思います。

【橋場委員】

コロナが収束して、海外から生徒が入ってくるとなれば、寄宿舎を利用するようなことになるのでしょうか。

【唐川学校教育局長兼ICT教育推進局長】

海外からこちらに来て、一緒に長く生活するようなことは、なかなか難しいと思いますので、恐らく、短期間での交流ということになるので

はないかと考えています。

【倉本教育長】

ほかに御質問や御意見はありませんか。

《委員から質問・意見なし》

【倉本教育長】

それでは、以上で本件の審議を終わり、報告を了承します。

(3) 報告 3 文部科学大臣表彰(優良PTA)の被表彰団体の決定について

- 報告を了承

(4) 報告 4 令和3年秋の叙勲受章者（教育行政関係、学校教育関係及び学校保健関係）の決定について

- 報告を了承